

音楽ディレクターである福山氏が、京都学生人口約30万人の中から「京都版モーニング娘。」を作り上げる事を目的した本企画。既に17号を連載し、関西圏では本コーナーにスクワティングされる事が、デビューへの登壇門とされていると評判。

Vol.23

アイドル発掘

リサーチんぐ娘。

何やらいつものリサ娘。と違う雰囲気…。今回登場の由依ちゃん、最初はポ〜っとしてなけど携帯の着メロが流れた瞬間からなにやら人が変わったように、トランスについて熱弁を始めたのでした。

トランス娘。愛用@CARモード 着メロも当然…トランス

福山：今回のリサ娘。由依ちゃん、最近充実してきた妹系でしたよね。

編集長：そやなあ。いや、でもなんか今日は圧倒されたわ(笑)

fb：そうそう、も〜最初から最後まで音楽の話、しかも全部トランスでしたね。

編集長：途中で携帯鳴ったやろ？あれ着メロやってんなあ…ホンマにOD流してみたいやっしビビリしたわ。

福山：しかも友達によって着メロの曲を使い分けてるって。なんでも彼女の見つけた携帯の着メロサイトがトランスばかりで、相当な曲数ダウンロードしてるみたいですよ。

fb：そのサイトって、トランスの曲数がハンパじゃないくらい充実してるんですよ。

編集長：へえ〜、でもあんなリアルなトランスが着メロやったら、ほらダウンロードしてしまうよなあ。

fb：ですよね(笑)

福山：なんか嬉しそうやなあ？

fb：実は…♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

編集長：なんや、お前もトランスかい！

Entry. 0027



土橋 由依
つちはし ゆい

1987.1.28生まれの17歳
身長151cm B.84 W.59 H.82 AB型

「お菓子も、ジュースも嫌い」という由依ちゃん。トランス好きだからやっぱりカラオケは「浜崎あゆみ」かと思いきや「フェイレイ」だそう。

FLASHBACK

1 画面F/Eにすると簡単に7772
FLASHBACK キューブ
L-505専用入り口

毎日更新
24時 遅刻厳禁
本誌に送るついで
1 各々の最新の情報を紹介
週刊「CARモード」
2003/09/08

OPENING ACT
今月のムッシュ777
週刊「F」スタート

由依ちゃんに教えてもらったサイトは「CARモード」確かにトランス曲満載です！ゲームや待ち画面もあるのでご興味のある方はぜひ一度アクセスを！

Fモード>趣味>車>CARモード

「アイドル発掘☆リサーチんぐ娘。」では現在、うら若きアイドルの卵を大募集！ 自薦・他薦は問いません、興味のある方はdtj@m21.or.jpまでどしどし写メールをお送り下さい。



京佛師

富田 珠雲

TOMITA JUUN

【プロフィール】75年生まれ。大谷大学在学中から佛像を学び、在学中に一体の仏像制作を決定。その一体を持って就職活動ならぬ「営業」をし、卒業後すぐに「佛師」としてデビューを果たした。これは業界では異例のこと。京都仏像彫刻家協会会員。

京 TIAN I.D.
キョーティアンアイディ
The 114th person

疑問と誓いと野望をもって走る 業界の花形、もしくは反骨の佛師



修復の仕事も主な仕事内容である。右は修復を終えたとばかりの阿彌陀如来像。前回の修復年が嘉永元年(1848年)と台座にある。「だいたい2~300年に一度修復するんですよ」。何と壮大な話か。左は氏の作品として現在最大のもの



主に使うのは100本程という彫刻刀の数々。無論、所産する総数はそれを遙かに上回る数。研ぐだけでも大仕事である。写真手前からほぼ工程の順に使う。カンナは台座や仏具の作業用で、仏具も仏像も手掛ける正に両刀使いは希少な存在



多趣味というわけではないが全国各地の民謡に造詣が深く、沖縄民謡の三線も嗜む。最近では書道や茶道など「道」に関するの興味が非常に深くなったと言う。写真は母校大谷大学内で開催された個展の看板から「佛」の一文字

京仕込み。京仕立て。料理界や呉服、茶道や華道と同様、京都には仏教の総本山も集中している。「佛師」に「京」の字を載せるプライドの根拠だ。「お父さんの仕事は?」。多くの子供たちが想像するしかないところ、彼の目には、常に祖父の代から位牌や仏具を彫る稼業、父のリアルな仕事場が映っていた。仏具の完成までには漆塗り、金箔押し…様々な分業がある。その工程に関わる全ての仕事を十把一絡げで「職人」と呼び慣わす業界風習に、珠雲少年は納得がいかない。仏像を彫る者だけが「佛師」と呼ばれ特別扱いはされる。「何故だ?」。佛師として独立した今も思う。祖父や父、今は弟が継いだ仏具に関わる技は、何ら佛師の技に勝るとも劣らない。

その伝統工芸を絶やさぬように国が資金を出して後継者を育てているが、現状は「失業者を育てているようなものでは?」と手厳しい。後継者育成は評価できるが、それだけでは足りない。「これから業界を背負う者が「仕事をください」「何とかしてください」ではダメなんです。京都で求める仏像の全てが「MADE IN KYOTO」ではないという驚くべき事実。この世界にまで、外国製のライン生産品が多くを占めているというのだ。自分なら30万の値を付けるであろう規模の仏像が、その原料費にも満たない値で売られている。しかも多くの製品のように「MADE IN ○×」の表示があるわけではないという現実。

それを愛いても嘆いても貴めても仕方がないしその気はない。自分の仕事の質をアピールするしかない。それを成さねば業界に先がない。だからギャラリー兼工房を構え、自らが成そうと誓う。

「魂を入れながら彫る」などよく言われるが、魂を入れるのは佛師ではない。それは開眼法要によって行われる僧侶の仕事だ。ただ魂の拠り所として、少しでも優れた形を追究する。「本願寺で泣きながら拝んでいる人を見た時に思いました。「要るときには要る。いつか必ず要るときが来る物だ」って」。信仰対象とは別に、「見られているから悪いことしたらアカン」と、自戒や自律を促す存在としてでも充分存在意義はある。

「もうオカシイぐらいの細かい仕事です。でもギターで一曲弾けるようになると次の曲…と思うのと同じで、最初は「立体」を造ろうと思ったのが、それができたら今度は衣に風を入れようというように「空間」を造ろうとする。次から次へと目標「造りたいものが増え続ける。終わりのない道。死ぬまでその道は続き、そして恐らく、死ぬ間際に自らの存在意義は知れるだろう。それまでに尊敬する名匠・快庵にどこまで近づけるか。丈六(じょうろく:立像としてのフルサイズ、一丈六尺=約5メートルの仏像)を完成させられるか。それは野望か本能か。反骨の佛師の挑戦は続く。

Information

■富田工芸十条佛師■
京都市伏見区深草相深町16
☎075-541-5841
E-mail juujyou-bushso@m4.dion.ne.jp